

2006 ITU ワールドカップ石垣島大会レース速報

庭田清美、田山寛豪ともに7位に入る

優勝は女子デビー・ターナー、男子カートニー・アトキンソン

4月16日(日)、沖縄県石垣市の登野城漁港特設コースで、日本のトライアスロンシーズンの開幕を告げる2006NTTトライアスロンジャパンカップ・ITUワールドカップ石垣島大会が開催された。

午後1時スタートの女子は、スイムから庭田清美(アシックス・ザバス)が積極的に前に出て、バイク終了時には6位まで追いつけた。ランではめまぐるしく順位が変わるなか、庭田はよく頑張り、7位に入賞した。優勝したのは、ワールドカップ初優勝となるデビー・ターナー(ニュージーランド)だった。ターナーは、「これまでの最高位が4位だった。ハードなレースとなったが、優勝できて幸せだ」と語った。

午後3時45分にスタートした男子は、田山寛豪(チームテイケイ)がスイムをトップでフィニッシュし、バイクへ移った。バイクでは、20名の大集団ができあがったが、4周目には細田雄一(Weider・speedo)が抜け出した。そのままランに移るかと思われたが、最終周に集団が追いつき、混戦のままランに勝負は持ち越された。

ランでは、田山が期待通りの走りを見せたが、力及ばずに7位にとどまった。優勝は、厳しいデッドヒートを制したカートニー・アトキンソン(オーストラリア)。石垣島大会は3度目の勝利とあって、「この島は僕にとってラッキー。今年のいい弾みになった」と、手放しの喜びようだった。

レースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



優勝のターナー(左上)、アトキンソン(右上)にメダル獲得の6名

手応えを感じたレースだったと庭田



「ランスタートまでは理想的。スイムはいい位置で上がったし、バイクではよく仕事をして周りをひっぱった」と、庭田清美(アシックス・ザバス)は振り返ったが、「実は、バイクに入る前に左のふくらはぎが痛くて、ちょっと苦しかった」とも。「今日は自分でリミットをつくらずにいこう」と思っていたと言うとおり、ランでは苦しくてあきらめかけたこともあったそうだが、「前の選手について、追い越して一つひとつ順位を上げて」と前を追っていたようだ。「直前のムールラバ大会では、不完全燃焼だったが、ここ石垣島大会でやるだけのことはやった」と庭田。しかし、最後は「頭が真っ白になって、ちょっとコースミスをしました。それが悔しい」と、ちょっと不満な様子。また、中西が庭田をリードしたことについては、「びっくりしました」と、驚くと同時にうれしそうだった。さらに、「一緒にトレーニングした田中敬子(NTT東日本・NTT西日本・スカイタワー58)も走りが変わったでしょう」と、庭田が指導したことを語った。



2006 ITU ワールドカップ石垣島大会レース速報

庭田清美、田山寛豪ともに7位に入る

女子トップ3／日本選手成績

順位	氏名	タイム	所属
1	デビー・ターナー	1:58:34	ニュージーランド
2	ミッシェル・ディロン	1:58:36	イギリス
3	サマンサ・ワリナー	1:58:50	ニュージーランド
7	庭田 清美	1:59:53	アシックス・ザバス
9	中西真知子	2:00:26	NTT東日本・NTT西日本
12	忽那 静香	2:02:17	日東紅茶・TEAM KEN'S・A&A
13	田中 敬子	2:02:30	NTT東日本・NTT西日本・スカイワ-58
18	上田 藍	2:03:35	グリーンタワー・稲毛インター
19	関根 明子	2:04:38	NTT東日本・NTT西日本
20	古谷あかね	2:04:49	トヨタ車体
21	大松沙央里	2:05:42	トヨタ車体
22	高木 美里	2:06:06	湘南ベルマーレスポーツクラブ
27	高橋 梨香	2:12:11	トヨタ車体

男子トップ3／日本選手成績

順位	氏名	タイム	所属
1	カートニー・アトキンソン	1:48:03	オーストラリア
2	ハンター・ケンパー	1:48:04	アメリカ
3	アンディ・ポッツ	1:48:11	アメリカ
7	田山 寛豪	1:49:36	チームテイケイ
11	山本 良介	1:50:25	トヨタ車体
17	西内 洋行	1:51:52	西京味噌
18	細田 雄一	1:51:56	Weider・speedo
22	平野 司	1:52:44	NTT東日本・NTT西日本・Weider
25	高濱 邦晃	1:53:41	日本食研実業団トライアスロン部
29	杉本 宏樹	1:54:22	チームテイケイ練習生
36	山本 淳一	2:00:04	K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター
37	犬童 太一	2:02:25	東京ヴェルディ
DNF	佐藤 治伸	—	日本食研実業団トライアスロン部

とても悔しいと田山



「残念でした」と、開口一番悔しそうな表情をしたのは、田山寛豪(チームテイケイ)。「北京でメダルを取ると宣言した以上、この石垣島では表彰台に上りたかった」と、自分の発言に対して責任をもつコメントを残した。スイムはトップで上がって、バイクでも積極的に前に出た。途中で細田が集団から一人で逃げた時にも「ここは出るべきではない」と、冷静な判断で集団にとどまった。それは、「このレースの流れは、バイクで逃げても勝てない」ということだったのだろう。ランでは、思い切りよく前を追ったが、7位となった。最後にマーク・フレッタ(アメリカ)をリードしながら、フィニッシュ直前で抜かれたことも相当ショックだったようで、「何よりも残念」と、レース運びに不満を残した。田山は、男子の若手のなかでも一番世界に近いと目されている選手。その田山が本気で悔しがることに、これから先のレースでの活躍が予測できる。

2006の最初で走りがつかめた。今年はこのまま行きたい



アテネ・オリンピックに出場したが、不本意な成績に終わった中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)は、当時から陸上コーチの金哲彦氏に師事していた。昨年はまだ未完成だったが、「今年の初めに走りがつかめたんです。体重も落ちてきたし、ランで勝負できるようになりました。やっと金コーチの指導の成果が出てうれしい」と、9位の成績にも、大きな手応えを感じた様子。実際レースでも、一時は庭田の前に出るなど積極的な走りを展開した。「庭田選手の前に出たのは、ちょっとオーバースピードでした」と、苦笑いの中西だが、「今後に期待してください」と自信ありげ。次のレースはマドリッドだそうだ。

